

《令和4年度 自己評価シート》

1 よくできている 2 まあまあできている 3 あまりできていない 4 まったくできていない

I 保育の計画性

内 容		評 価 (%)				
		1	2	3	4	関わっていない
1、園の教育理念・教育方針の理解						
①	園の教育理念や教育方針を理解している	41	53	6		
2、保育所保育指針の理解						
①	保育所保育指針を理解し、乳幼児の姿や環境の構成、保育者とのかかわりなど具体的な事例を思いうかべることができる	24	64	6	6	
3、教育課程の編成と評価						
①	園の教育課程は、保育所保育指針をふまえ園の教育理念・教育方針に従い編成している	47	29	18		6
②	1年間の子どもの成長を振り返り、教育課程を評価している	47	41	6	6	
③	園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	41	53			6
4、指導計画の作成						
①	指導計画は、乳幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している	64	30	6		
②	行事は、乳幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている	64	30	6		
5、環境の構成						
①	指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている	41	59			
②	楽しい雰囲気の中で、安定して遊びように遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている	24	64	6		6
③	乳幼児の活動がより豊かになるように園児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている	36	52	12		
④	乳幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている	18	64	18		
⑤	異年齢の乳幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	12	64	18		6
6、保育と計画の評価・反省						
①	自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている	30	64			6
②	園内研修で保育を見せ合い、検討し、評価・反省を踏まえ、乳幼児の生活と自らの保育につなげている	6	34	30	6	24

II 保育の在り方、園児への対応（回答は3歳以上児・栄養士の職員を含む）

内 容		評 価 (%)				
		1	2	3	4	関わっていない
1、健康と安全への配慮						
①	朝の登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして、乳幼児の健康状態を確認している	76	12			12
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど、適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	82	6			12
③	保護者から健康状態などの申し出を受け、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖などの既往症について把握している	76	18		6	
④	乳児は午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）およびSIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している	58	12			30
⑤	乳児は、一人ひとりの排泄間隔を把握し、排泄のリズムに合わせて、オムツ交換をしたり、トイレに促している	58	6			36
2、乳幼児の見取りと理解						
①	乳幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察して受け止め、信頼関係を築いている	64	24	6	6	
②	一人ひとりの乳幼児の発達課題について見通しをもって保育している	36	52		12	
3、指導と援助						
心のよりどころとして	① 落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、乳幼児が人との関わりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている	64	24	6		6
	② 泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている	52	36		6	6
	③ 乳幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れる	52	36		6	6

遊び・活動の援助者として	①	乳幼児の心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている	18	70		6	6
	②	子どもの気持ちをくみとり、安心感と自己肯定感がもてるような言葉かけをしている。	42	52		6	6
	③	禁止、命令、行動を急がせたり、自身を失わせる言葉かけや態度は控えている	18	64	12	6	
その他	①	乳幼児期は身体的条件や生育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている	60	34	6		
	②	障がい児に対して個別に対応し他児と育ち合える保育を進めている	24	18	6		52
4、保育者同士の協力・連携							
	①	保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉かけや対応をしている	41	41	18		
	②	指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い共通理解をもって対応するようにしている	60	40			
	③	他クラスや異年齢児との触れ合う機会がもてるようにさまざまな工夫、保育の形態に配慮している	18	64	18		

III 保育者としての資質や能力・良識・適性

内 容		評 価 (%)					
		1	2	3	4	関わっていない	
1、専門家としての能力・良識・義務							
専門家としての能力	①	保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけている	30	64	6		
	②	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	46	42		6	6
	③	保育者並びに他職員が仕事の手順を考え、能率よく行っている	18	76		6	
	④	保育者の人間性が子どもたちに影響を与えることを自覚している	64	30	6		
良識とマナー	①	乳幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている	70	30			
	②	保護者や職員同士、朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている	88	12			
	③	園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	94	6			
	④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	70	30			
義務	①	教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している	36	58	6		
	②	締切りのある仕事や提出物の締切日、出勤時間、打ち合わせの時間をきちんと守っている	47	47	6		
2、組織の一員としての在り方							
	①	他者の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を順序立てて、述べることができる	24	70	6		
	②	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは、メモに書き留め、園長や主任に報告、連絡、相談している	42	52	6		
	③	勤務や役割による仕事を理解し確実にしている	60	40			
	④	上司の指示、命令には責任を持って実行し、終わったらきちんと報告している	48	52			

IV 保護者への対応・守秘義務

内 容		評 価 (%)					
		1	2	3	4	関わっていない	
1、情報の発信と受信							
	①	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	6	58	24	6	6
	②	クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている	30	40	18	6	6
	③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝え合っている	58	30			12
	④	保育参観や保護者面談を定期的に行い、子どもについて、園や家庭でのあり方について共通理解を得るように努めている	64	24			12
	⑤	保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している	42	46		6	6
2、協力と支援							
	①	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりしないで、園長や主任等に報告や相談をしている	58	30	6		6
	②	自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる	18	58	18	6	
3、守秘義務の遵守							
	①	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない	94	6			

②	秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、および園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない	82	18			
③	秘密情報の帰属は園または法人にある事を認識し、書類、電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出し届出許可書にて園長の許可を取っている	76	18	6		
4、対応上のマナー・良識						
①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて話しかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	36	58	6		
③	電話では、簡潔に要領よく対話する事を心がけている	47	47	6		
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	58	42			
5、クレームへの対処の仕方						
①	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	70	24			6

V 地域の自然や社会とのかかわり

内 容		評 価 (%)				
		1	2	3	4	関わっていない
1、地域の自然・人々とのかかわり						
①	地域の人々と親しくあいさつを交わしている	70	24	6		
②	地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	12	52	30		6
③	実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している	42	58			
④	中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解・確認している	24	52	6		18
2、小学校との連携						
①	園の保育内容が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解している	64	30	6		
②	小学校の教育内容について理解するよう努めている	18	41	41		
③	小学生が遊びに来ることの出来る場（行事等を含む）を設けている	6	30	18		46
④	卒園した子どもの情報を得よう努めている	6	18	52	18	6
3、地域の特徴を生かした保育の展開						
①	畑で収穫した野菜を観察し、興味や関心を持てるよう保育実践している	30	46	12		12
②	高齢者との交流のために、施設を訪問したり・行事への参加の呼びかけなど行っている	6	12	18	12	52

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、行事交流が出来なかった。

VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

内 容		評 価 (%)				
		1	2	3	4	関わっていない
1、研修・研究への意欲・態度						
①	研修会や園内研修には自己課題をもって参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている	18	70	6		6
②	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて他保育者や主任、園長と話し合っている	18	58	18	6	
2、遊具・教材に関する専門性の向上						
①	園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている	24	70	6		
②	子どもたちが使用する、園の遊具や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測している	30	64	6		
3、今日的課題に関する専門性の向上						
①	子どもたちを取り巻く様々な状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている	36	64			
②	アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味や関心をもっている	52	48			
③	幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている	30	58	6	6	
④	子どもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心をもっている	48	52			
4、自らを高めるための学習						
①	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある	36	40	24		